

# 全国多自然川づくり会議

## National conference on Nature-oriented River Management

自然環境グループ 研究員 金子 祐  
 主席研究員 中村 圭吾  
 自然環境グループ 研究員 内藤 太輔

### 1. はじめに

平成2年に『「多自然型川づくり」の推進について』が通達され、河川が本来有している生物の良好な生息・生育環境に配慮し、あわせて美しい自然景観を保全あるいは創出する「多自然型川づくり」が始まった。その後、平成9年に河川法改正（河川環境の整備と保全が目的として明確化）及び河川砂防技術基準の改訂（多自然型川づくりを基本とすることを位置づけ）が行なわれ、平成18年には「多自然川づくり基本方針」が出され、全川で「多自然川づくり」が展開されることとなった。

これらを受けて、平成4年度からは、多自然川づくりに対する知見の蓄積や意識の向上を目的とし、国土交通省主催で、国・都道府県・政令都市の職員を対象とした「全国多自然川づくり会議」（以下「全国会議」という）が開催されている。

（公財）リバーフロント研究所では、国土交通省中国地方整備局発注業務（令和4年度 持続的な多自然川づくりに関する検討業務）の一環として、全国会議の企画・検討・運営を行った。

### 2. 全国多自然川づくり会議とは

全国会議では、各地方整備局単位で実施されるブロック会議（地方予選）で選抜・推薦された優秀事例の発表・議論が行われ、その中から全国展開すべき優れた模範的な事例が「代表事例」として選出され、表彰が行われる。

平成28年度からは、各事例の発表資料や代表事例の選出結果などの会議概要が、国土交通省水管理・国土保全局河川環境課のHPにて公開されている<sup>1)</sup>。

表-1 全国会議の近年の開催実績

年度	会場	参加者数	発表事例数		代表事例
			全国会議	地方予選	
R4	オンライン	約200名	28事例	97事例	4事例
R3	〃	約100名	29事例	96事例	〃
R2	書類審査	-	30事例	83事例	6事例
R1	さいたま新都心合同庁舎会議室	約150名	27事例	105事例	4事例
H30		約140名	28事例	109事例	〃

### 3. 令和4年度の開催概要

令和4年度は、前年度に引続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンライン形式にて会議が開催され、4つのテーマ毎の発表及び討議（分科会）と代表4事例の選出・表彰、学識者による基調講演が行われた。分科会では、昨年を引き続き、全国で大規模に実施されている河道掘削や樹木伐採を伴う河川改修事業に関連した事例が数多く発表された一方で、遊水地の整備事例（豊栄川、円山川）やICT技術を活用した事例（山国川、九川谷川）など、現在展開されている施策（流域治水や新技術）に関連した発表も行われた。

代表事例には、遊水地の樹林化対策事例（豊栄川：北海道）や令和4年度の土木学会デザイン賞最優秀賞にも選出された川原川（岩手県）の「復興かわづくり」における、周辺公園と河川空間の一体的な整備事例など計4事例が選出された。

基調講演では、景観デザインの専門家である福井恒明教授（法政大）から「水害後のかわまちづくりを考える」と題して、水害後の河川事業で、“かわとまちの関係を保持する際の方向性”や“水際空間を再構築する”考え方について、阿賀野川咲花地区復元事業などの事例と共に話し頂き、堤防を構築する際に必要な景観・水辺利用の視点や、空間設計を行う際の基本的な考え方など、実事例を題材にご紹介頂いた（図-1）。

表-2 令和4年度の講演テーマなど

基調講演テーマ/講演者	分科会テーマ
水害後のかわまちづくりを考える	河川改修等における工夫事例～河道掘削の取組など～
	環境整備事業等における工夫事例
法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科 教授 福井 恒明	河川改修等における工夫事例～災害復旧、樹木管理の取組～
	地域連携、人材育成・普及啓発における工夫事例



図-1 基調講演（法政大学 福井恒明 教授）

#### 4. 令和4年度の発表事例の紹介

第1分科会（講演テーマ：河川改修等における工夫事例～河道掘削の取組など～）では、河道掘削工事における重要種の保全や自然環境に配慮した工夫事例などの発表が行われ、遊水地の樹林化対策事例（豊栄川：北海道）が代表事例に選出された。

豊栄川の取組みでは、遊水地を整備する際に、ヤナギの繁茂を抑制するため表土を工夫した点や、地下水位を考慮して湿地化した点などが評価され、今後の施策（流域治水）で遊水地整備が多くなる中での環境配慮の参考事例として、全国展開が期待される（図-2）。



図-2 令和4年度全国会議発表資料（豊栄川）<sup>1)</sup>

第2分科会（講演テーマ：環境整備事業等における工夫事例）では、自然再生計画における自然環境の創出・保全事例や、かわまちづくり計画において地域の賑わいを創出する工夫事例などの発表が行われ、周辺公園と河川空間の一体的な整備事例（川原川：岩手県）が代表事例に選出された。

川原川の取組みでは、震災により嵩上げされた街と水辺空間を繋げるよう、川の深さを感じさせない、水辺に近づきたくくなるような川づくりが実施されており、全国会議では、特に河道の拡幅を行い、なるべく護岸を設置しないよう工夫した点や、公園整備と潜り橋を併用し水辺の動線をしっかりと確保した点など、生態系や景観等に配慮した河川環境が創出されている点が評価され、代表事例に選出されている（図-3）。



図-3 令和4年度全国会議発表資料（川原川）<sup>1)</sup>

第3分科会（講演テーマ：河川改修等における工夫事例～災害復旧、樹木管理の取組～）では、災害復旧事業において、限られた期間の中で、その川が流れる地域の歴史風土を尊重した多自然川づくりを、ICT技術を取り入れ、丁寧かつスピーディに実施したことに加え、景観に配慮した設計・施工のオリジナルルール（山国川ルール）を策定した事例（山国川：九州地方整備局 山国川河川事務所）が、第4分科会（講演テーマ：地域連携、人材育成・普及啓発における工夫事例）では、行政と地域の双方向からの連携が図られた湖岸の再生事例（霞ヶ浦：関東地方整備局 霞ヶ浦河川事務所）がそれぞれ高く評価され、代表事例に選出されている。

その他、惜しくも代表事例に選出されなかった事例の中にも、滞筋や瀬・淵の保全・復元の取組みとして、数値シミュレーション（iRIC）による、バープ工などの計画・検証を事務所職員により一貫して取組んでいる千種川（兵庫県）の事例など、多くの好事例の発表が行われた（図-4）。

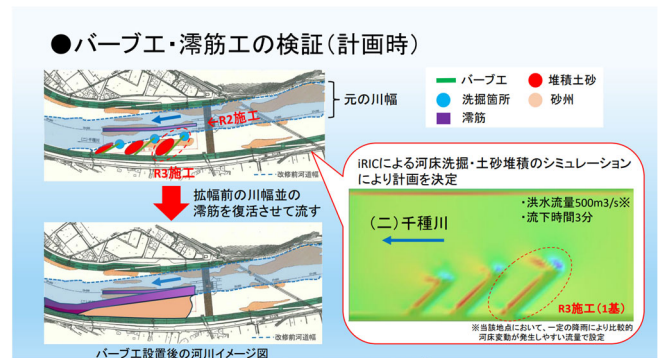


図-4 令和4年度全国会議発表資料（千種川）<sup>1)</sup>

#### 5. おわりに

（公財）リバーフロント研究所では、情報発信として、最新の多自然川づくりに関する知見、優良事例の発信・普及を行っている。全国会議については、会議結果を伝える国土交通省水管理・国土保全局河川環境課のHP<sup>1)</sup>での公開の翌日に、当研究所公式 Twitter で公開について配信したところ、5.9 万を超えるインプレッションがあり、多自然川づくりに関する関心の高さが伺えた。今後も、こうした様々な媒体、手法を用いて、より多くの方々へ広く情報の発信・普及に努めていきたい。

#### <参考文献>

- 1) 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課：全国多自然川づくり会議，<https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyou/tashizen/03.html>